

いわた 文化財だより 第205号

磐田市教育委員会教育部文化財課 令和4年4月1日発行

目次

- 心の風景を残す ～豊浜地区の無形民俗文化財のDVDができました～ P1～2
- 源平伝説地を訪ねて その1 P3
- 文化財だより合冊版を刊行しました! P4
- コラム『撮る、獲る、どうする?』佐藤清隆 P4

心の風景を残す

～豊浜地区の無形民俗文化財のDVDができました～



「中野白山神社十日祭（お箱）」

毎年1月第2日曜日におこなわれる行事で、未婚の男性3名が生き神様となり、神宝を納めた箱を担ぎ、区内を回ります。住民は頭を下げて箱を当ててもらい、1年の無病息災を祈ります。

「中野白山神社例祭（白酒）」

江戸時代から伝わる行事で、10月の中野白山神社例祭に供えるために、地区から選ばれた杜氏（とうじ）が「どぶろく（白酒）」を造ります。



人の営みがある場所には、その地域特有の風土の中で、長い年月をかけ伝えられてきた祭や行事、風俗慣習、民俗芸能があります。地域を離れた人にとっては、故郷を懐かしむ心の風景にもなっています。これが無形民俗文化財で、その時の社会の状況により、中断したり、所作を変更したりしながら、地域の人々の努力で伝えられてきました。しかし、後継者の減少などにより、旧来の形態を伝えることが困難になり、存続さえも危ぶまれているのが実情です。このため、磐田市では無形民俗文化財の様子を調査・記録し、映像として将来に残す事業を進めています。

令和2年度の「氏神様の年始回り」に続き、令和3年度は「中野白山神社例祭（白酒）」と「中野白山神社十日祭（お箱）」の記録撮影業務に取り組み、豊浜地区に伝わる3件の磐田市指定無形民俗文化財をDVDに編集しました。今回は令和3年度の撮影秘話をご紹介します。



中野白山神社（豊浜中野）

例祭と十日祭はどんな行事なの… と聞かれたら文化財だよりの出番デス！

「中野白山神社例祭（白酒）」「中野白山神社十日祭（お箱）」は…今月号では写真を並べました。想像してください。それでも知りたい人は過去の文化財だより見てください。（例祭：文化財だより 91号、201号 十日祭：文化財だより 93号、179号）

例祭



米を蒸かす



蒸し米と麴を混ぜる



大樽に仕込む



神前に供える

十日祭



護符を作る



転読の祈願をする（公民館）



氏子を祓う（拝殿）



氏子を祓う（境内）

撮影準備は1年以上前から 実は取材してるんデス！

事前の準備は数年前からおこないます。地元の方からお話を伺い全体の流れを確認します。地域を知るため、何回も足を運び、地域の成り立ちや、地域の特色を体感しました。12月31日の深夜にも中野白山神社を訪ね、年明けに行われた元旦祭も取材させていただきました。



元旦祭の様子（令和2年1月1日）

アクセントが大切 微妙な発音…… なかなかできないんデス！

豊浜中野では「トミョウ」と呼ばれる10軒の家が、祭を掌っています。10家の名主から「十名」、あるいは一門の頭であることから「頭名」から転じたと言われていています。「ト」にアクセントをつけ、「ミョウ」がメイに近い発音になるような、ならないような、とてもデリケートな発音が求められます。地域にはその地域独特の言い回しがありますが、これも大切な文化財です。

DVDで瞬間移動！ 豊富な？ラインナップ 見たい動画ワクワク

このほかにも、磐田市内に伝わる「見付天神裸祭」などの無形民俗文化財のDVDを図書館等で、短縮版は磐田市公式YouTubeで視聴することができます。いつでも、どこにいても行事の臨場感を味わうことができます。是非ご利用ください。



見られる行事 見付天神裸祭 八王子神社米とき祭り 豊岡の遠州大念仏 加茂大念仏 池田やかた祭り 賀茂神社特殊神饌

中野白山神社例祭・十日祭のDVDは4月下旬に図書館で視聴することができます。

お楽しみに！

源平伝説地を訪ねて その1

磐田市内に、源平の伝説地があるのをご存じでしょうか。今日まで継承される伝説には、それが発生した要因（もと）となるものが存在したはずです。このシリーズでは、市内に残る4か所の「伝説地」と「石塔（供養塔）」からその要因を探ります。第1回は、池田に伝わる「熊野御前と平宗盛」と供養塔についてです。

伝説地「池田荘」

「熊野御前と平宗盛」の伝説が残る池田は、平安時代の終わり頃、池田荘と言われました。その成立は明らかではありませんが、嘉応3年（1171）に書かれた境界を明示する古文書（立券文）によると、池田荘は現在の池田を中心に遠州灘まで及ぶ広大な範囲であったことがわかっています。

また、この頃、天竜川はこの荘園の東側を流れていたことが知られています（『豊田町誌』「天竜川と池田渡船」別編Ⅰ 1999年）。平安時代末、源平の争乱の頃から、東海道を往来する人々が増え、当時、天竜川の西岸にあった池田が繁栄したのもこの頃からです。



池田荘の位置
（『図説浜松の歴史』より）

「熊野御前と平宗盛」の説話と供養塔



熊野御前（左）とその母の供養塔（右）

熊野に関する説話は、平家物語や謡曲『熊野』、東海道名所図会などにみられます。

【あらすじ】

池田の名家・藤原重徳の娘、熊野（※）が將軍・平宗盛に召し出されて京に上り、宗盛の寵愛を受けるところとなった。ところが、故郷・池田の母親が病氣となったため、帰国を願い出るが許されなかった。しかし、京都東山の観桜の席において詠んだ

「いかにせん都の春も惜しけれど なれし東の花や散るらん」（都の春も名残惜しいけれど、住み慣れた池田の母の命も散ろうとしている）

の一首が宗盛の心を動かし、池田に帰ることを許された。その後、時代も大きく変わり、栄華を極めた平家一門が元暦2年（1185）に滅び、彼女の父も母も他界、彼女自身も建久9年（1198）5月3日、33歳という若い生涯を終えた。（『千手と熊野』磐田西高校 2001年参照）

説話に登場する熊野とその母の墓塔は、現在、池田の時宗寺院・行興寺にあります。いずれも長身の宝篋印塔で、東伊豆産安山岩製の14世紀末に造られた供養塔です（市指定文化財）。

（※）親の名前が「熊野」、熊野は娘ではなく「侍従」という説もあります（その2へ つづく）

文化財だより合冊版を刊行しました！

「いわた文化財だより」を1冊にまとめた合冊版を刊行しました。今回は第151号から第200号までを収録したものと、完売していた第1号から第50号をまとめたものの2種類です。ぜひ、お手元において楽しんでください。

遺跡、建造物、民俗など、市内の様々な文化財を紹介しています。読むときっと市内の歴史を巡りたくなる、おすすめの本です。

私たちの身近な地域の
歴史情報が満載！

- 発売日 令和4年4月6日（水）
- 価格 いずれも1,000円（A4版 カラー）
- 販売場所
 - ・埋蔵文化財センター（8時30分～17時/土・日・祝休館）
磐田市見付 3678-1 TEL:0538-32-9699
 - ・歴史文書館（8時30分～17時/土・日・祝休館）
磐田市岡 729-1（竜洋支所内） TEL:0538-66-9112
 - ・旧見付学校（9時～16時30分/月・祝日の翌日休館）
磐田市見付 2452 TEL:0538-32-4511
 - ・旧赤松家記念館（9時～16時30分/月・祝日の翌日休館）
磐田市見付 3884-10 TEL:0538-36-0340



職員リレー コラム

撮る、獲る、どうする？

佐藤清隆



『冬の朝、冷気華やぐ』—鶴ヶ池—

元日の早朝、鶴ヶ池で「コハクチョウ」の飛行写真を撮りました。葦原から5羽がまるでバレエの「白鳥の湖」のように順に登場し、やがて水面を滑走して飛び立ち、朝日に映える山を背景に餌を求めて北へ向かう感動的なシーンに出会いました。

空気のきれいな自然の中で過ごすことは、とても健康的です。ただし、「上手く撮れなかったストレス」には要注意ですが・・・。

さて、いささか気が早いのですが、来年の大河ドラマは「どうする家康」とのことで、磐田も舞台になるかと楽しみです。「どうする〇〇」が流行語になるかもしれませんね。

ところで、家康と鳥といえば「鷹狩」です。磐田には天正15年（1587）に中泉御殿が造られ、度々宿泊して鷹狩をおこないました。御殿の南にある大池周辺は良好な鷹場で、『駿府政事録』には「慶長17年（1612）2月4日、鶴二羽を得る」などとあります。

家康は戦に役立つとして鷹狩を好みましたが、野に過ごすことで健康にも良かったのです。ただし、「上手く獲れなかったストレス」には要注意で、家臣が事前に用意した鳥を放つこともあったようです。鷹狩の時には、家臣も「どうする？」と、大変でした。

編 集 後 記
ついに！文化財だより合冊版の4冊目が完成しました！思い入れがありすぎて、ありすぎて・・・言葉になりません。どうぞよろしくお願いいたします。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課（磐田市埋蔵文化財センター）
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。 [磐田 文化財だより](#) [検索](#)